

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長	大原 俊哉	生徒指導主事	金田 耕治
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『めざす学級とは？』**

**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共感的人間関係」	2	「主体性・積極性」	3	「自己有用感・自己決定」	1

**取組のねらい『キーワード 思いやり 』**

本校では、知・徳・体の土台となる「挨拶・姿勢・一生懸命・思いやり」の精神を大切にし、「さわやか十中」をキャッチフレーズに取り組んでいる。本年度は、2学期に学級活動を通して、めざす学級像について考えさせた。学級の中で身近な課題に気づいたり、人を茶化したりする思いやりに欠ける行動等を改めていく風土を醸成し、互いに認め合う関係づくりの育成を目的として取り組んだ。

**取組の具体的内容『キーワード 自律・自己調整 』**

・学年の総務委員会で「めざす学級」に関わる取組の目的と活動内容について確認し、総務委員を中心に取り組み、班活動等を通して各学級の「めざす学級」について定義する。

<活動内容>

(班活動)

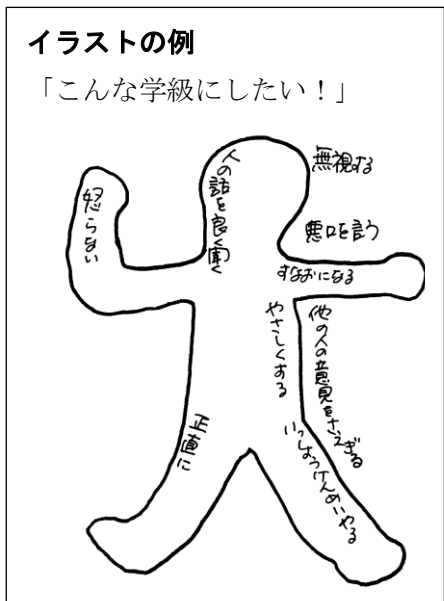
- ① 「めざす学級とはこんなものだ！」とイメージできるようなイラストを紙の中心に書く。
- ② 「めざす学級を実現するために自分ができる行動」等をイラストの内側に書き込む。  
イラストの外側には、「ふさわしくない行動」「あってほしくない行動」等を書き込む。  
(※全員イラストを囲み、順番に書く。)
- ③ 各班で、書いたイラストをもとに「めざす学級」について協議し、決定した内容に価値づけをし、理由も用紙に書く。

(全体交流)

- ④ 各班の意見を発表し、全体で意見交流を行う。
- ⑤ 学級の「めざす学級」を協議し決定する。



- ・生徒一人ひとりが日頃から自分や周りの人の頑張る姿に気づき、互いに認め合う関係を築く。
- ・一生懸命に取り組むことを茶化すなど行動を改め、生徒の自己調整の指針とする。



**取組の課題・創意工夫『キーワード 取組を通して「日常化」 』**

・今後は、この取組を通して、生徒たちが気づいたことや考えたことを、自らの学校生活に日常化していける取組の継続性と、さらに、取組の内容を教科学習やあらゆる教育活動と連動させるなどの工夫改善が必要である。

**取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感の向上 』**

- ・生徒たちが日頃から「めざす学級」に立ち返り、自らの気持ちを切り替えたり、自らの言動を振り返る自己調整できる場面も徐々にみられるようになった。

<生徒アンケート（i-check）の結果>

- ・「今のクラスは好きですか」の項目の目標値 80%に対して、肯定的評価の割合は 88.6%（1年 88.2%，2年 86.3%，3年 91.3%）であった。
- ・「あなたが頑張った時、友だちから認められていると思いますか」の項目の目標値 80%に対して、肯定的評価の割合は 89.6%（1年 89.6%，2年 85.5%，3年 93.8%）であった。

**今後の展開『キーワード 居場所づくり，絆づくり 』**

- ・各学級での「めざす学級」像を、今後とも学級活動の指針の一つとする。
- ・学級でのこの取組を、さらに生徒会活動と連動した取組につなげていく。

**他教科との関わり『キーワード 横断的な取組 』**

- ・今回の取組の内容を、授業の中で生徒指導の三機能と連動させた学習活動（協同学習等）となることをめざして取り組んでいる。
- ・今後、さらに教科学習やあらゆる教育活動と連動させるなどの工夫改善が必要である。